

令和4年度 厚生労働科学研究費補助金  
(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総合研究事業))  
子どもの死亡を検証し予防に活かす包括的制度を確立するための研究  
分担研究報告書  
主要課題5. 子どもの死亡に関するデータベースの探索

CDR に関連するデータベースの構築およびその利活用に関する研究

研究分担者 川口 敦 聖マリアンナ医科大学 小児科  
沼口 敦 名古屋大学医学部附属病院 救急・内科系集中治療部  
研究協力者 梅本 正和 うめもとこどもクリニック  
小鹿 学 山梨大学医学部 小児科

**研究要旨**

わが国で CDR は地域ごとに独立して実施する事業として開発される一方、小児死亡の全体像を把握し、疫学的背景に応じた全体的な検証を行うことも期待される。

このことの探索のため、(1) 各地域でどのようなデータ収集と保存が行われるかを明らかにすること、また (2) 現状で取り扱われる質的データを量的データに変換する方法を模索すること、を実現するための準備を開始した。この結果は、今後の CDR の中央支援のありかたを考察するための重要な知見となることが期待される。

**A. 研究目的**

わが国で CDR は地域ごとに独立して実施する事業として開発されつつあるが、死亡について全体像を把握すること、また疫学的背景も加味した全体的な検証を行うことも期待される。しかし、この目的で情報を統合することについては探索がなされていない。

諸外国、例えば米国では CDR で用いるデータを closed question に落とし込み、多くのデータを量的に評価できるよう規格統一を行なっている[1]。一方、現在国内で実施される各地の CDR モデル事業において、どのようなデータ収集が、どのようなフォーマットで行われ、どのように保存されているのかは明らかでない。統一されたフォーマットがない状況では、データの蓄積に困難が予測される。

本研究は、3年間の研究期間で、CDR を疫学背景の探索に活用するための情報統合のあり方を探索することを目的とする。

**B. 研究方法, C. 研究結果, D. 考察**

わが国の CDR モデル事業を実施している各地域において

1) どのような記録データが、どのような形で保存されているのか。

2) 上記データについての利活用の可能性について、どのような課題があるのか。

を、各プログラムステークホルダーらへの聞き取り調査を通じて明らかにする。

以上についての企画立案を分担施設である聖マリアンナ医科大学で行い、倫理委員会への提出の準備を行なった。

また国内数施設で収集記録を行なった記述式のデータについて、検証に使用する対象者の情報を、テキストマイニングソフトウェアを介し機械学習によって理解することで、人的検証と違った、あるいは人的検証と同等のレビュー結果が得られないかを検証する。またテキストデータを用いて、量的データへの変換が行えな

いかを検証する。

以上について、テキストマイニングソフトの取得を行い検証の準備を進めた。

#### **E. 結論**

CDR を地域ごとの事業として、主に個別事例の検証を実施することの探索が進んでいる。一方で、死亡について地域の全体像を把握こと、さらに疫学的背景も加味した広範囲な検証も期待されるが、このことに対して更なる探索が求められる。

このなかで、個別検証で取り扱われる質的データを量的データに変換することにより情報の集約統合を図る方法について、探索の方向性を定めた。この結果は、今後のCDRの中央支援のありかたを考察するための重要な知見となることが期待される。

#### **F. 健康危機情報**

(特になし)

#### **G. 研究発表**

(特になし)

#### **H. 知的財産権の出願・登録状況**

(特になし)

#### **参考文献：**

1. The National Center for Fatality Review and Prevention. CDR National Fatality Review-Case Reporting System Form version 6.0. ([https://ncfrp.org/wp-content/uploads/CDR\\_CRS\\_v6-0.pdf](https://ncfrp.org/wp-content/uploads/CDR_CRS_v6-0.pdf))